

さらなる高みをめざそう！

第23回デフリンピックが今月に開催

いよいよ、この7月にろう者のための国際的なスポーツ大会、第23回夏季デフリンピックが、トルコのサムスンで開催されます。前号に続き、デフリンピックや金メダリスト候補選手について紹介します（関連記事本紙1面掲載）。

茨隆太郎選手(23歳・神奈川県在住)

●金メダリスト候補の一人 ●



水泳競技

感性性難聴90dB。東京都立江東ろう学校、都立中央ろう学校を卒業。現在、東海大学大学院体育学研究科に籍を置いている。過去2回の大会で金メダルを獲得。今回、水泳の7種目に出場し、「三冠」の達成をめざす。主なコミュニケーションは手話。



2015年の世界選手権大会で銀メダル獲得

茨さんは2歳から水泳を朝練、水曜以外の月曜と土曜に二部練。「自己ベストを更新する瞬間が、技能の



同様に金メダリスト候補、良き友人で良きライバルの金持義和選手(右)とともに

状況を見極めながら、6日

聴か

十カ・ミ子(33)



間続くデフリンピックの試合で毎回自分の持っている力を全て出し切るような身体づくりをしていくことが必要と考えています。「今度のデフリンピックは自分の23年間の集大成になると思います。これまで積み上げてきたものを全て出し切れるよう、残りの競技生活を全力で生きたいです。今後の競技にかけの意気込みを語りました。

電話リレーサービスと役割等について学ぶ

全国聴覚障害者情報提供施設協議会の第13回大会

6月8日から9日、茨城県の水戸駅近くのホテルで全国聴覚障害者情報提供施設協議会(正会員52施設)の総会が開催されました。51施設から75人、賛助会員の5施設・団体から9人、地元の茨城県聴覚障害者協会関係者86人の参加がありました。

総会では、2016年度事業報告として、障害者差別解消法施行を受けて、施設が果たすべき役割についての調査・研究・啓発事業に取り組んだこと、DVD「教えてタモちゃん」合理的配慮についてを配付

デフリンピックのことをもっと知ろう！

◆デフリンピックへの参加資格
補聴器を外した裸耳状態で聴力レベルが55デシベルを超え、かつ各国のろうスポーツ協会に登録していること。競技中に補聴器を装着することは禁止されている。

◆デフリンって何？

ろう者自身が運営する、ろう者のためのオリピック。1924年からフランスで初開催(運営：国際ろう者スポーツ委員会「ICSD・104カ国が加盟」。参加選手は国際手話等によるコミュニケーションを図って交流を深めている。

◆パリンとの違い

1989年の国際パリン委員会発足当時はICSDも加盟していた。しかしコミュニケーションにおける「卓越性」を追求している。

加者から電話リレーサービスについて学びたいとの声が多く出されました。この意見交換がありました。

連盟 手話言語法等の論点を説明

自民党の障害児者問題調査会に対し

自由民主党の障害児者問題調査会(会長：衛藤晟一議員)の「障害者の情報コミュニケーション推進に関するPT」は6月13日に東京都で会合を開催。全日本ろうあ連盟から石野富志三郎理事長、小中栄一理事、長、久松三三事務局長が出席し、情報・コミュニケーション法と手話言語法の論点を説明を行いました。

人事異動のお知らせ

代表者変更
北海道ろうあ連盟理事長 長：嶋崎日出雄(山根昭治)(5月22日付)
岩手県聴覚障害者協会会長 長：石川隆(千葉孝)(5月22日付)

連盟職員採用



中村彩香

梅澤仁士

全日本ろうあ連盟は7月1日付で次の間こえる2人を正職員として採用し、本部事務所に配属しました。
梅澤仁士(うめざわひとし) 手話通訳士。京都事務所で勤務経験有。
中村彩香(なかむらあやか) 杉並区認定手話通訳者の資格有。